＜特別支援教育コーディネーター通信　第３号＞

令和６年６月２１日
奥多摩町立奥多摩中学校
特別支援教育コーディネーター

にじいろ

養護　青木は長年剣道をやっていますがオリンピック競技にはないため、陸上、柔道、卓球、バレーボールなど様々なスポーツ観戦をしています!!
剣道の世界大会は、今年の７月にイタリア（ミラノ）で開催されます。

今年は、７月からパリオリンピックが開催されます。みなさんも自分の好きなスポーツや選手がいるのではないでしょうか。オリンピック会場など多くの人がいる中で誰もが過ごしやすい環境づくりをすることが近年重要視され様々な工夫がされています。本日は、私たちの生活の中にある「ユニバーサルデザイン」についてお伝えします。

「ユニバーサルデザイン」の定義

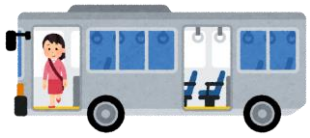


「ユニバーサルデザイン」とは、1980年代にアメリカのロナルド・メイス博士を中心に考えられた、**「年齢や能力、状況などにかかわらず、できるだけ多くの人たちが使いやすいように、製品や建物・環境をデザインする」**という考え方です。日本でも 1990 年代頃から知られるようになりました。

「7つの原則」を知っていますか？

ユニバーサルデザインの考え方をより広めるために、「ユニバーサルデザイン７原則」があります。

①みんなが使いやすいデザイン



使う人がだれであっても、簡単に使えて、同じように利用できること。
ex)自動ドアや床が低いバスなど。

②使い方が自由で変えやすいデザイン



使う人の好みや能力に合わせられるデザインであること。
ex)コインを入れる部分が受け皿タイプの自販機は、利き手がどちらでも使いやすいデザインとなっています。

③シンプルでわかりやすいデザイン



使う人が理解しやすく、難しくないデザインであること。
ex)シンプルでわかりやすい機械や携帯電話、簡単にできる手続きなど。

④わかりやすい情報





必要な情報が簡単にわかること。
ex)道路標識や音声案内の装置などいろいろな方法で情報を伝えることで多くの人がアクセスしやすくなります。

⑤失敗しても大丈夫なデザイン



小さなミスをしても、それが大変なことにつながらないこと。
ex)電車との接触を防ぐホームドアは安心安全を高めることができます。

⑥力をあまり使わなくてもいいデザイン



少ない力で使えて、長く使っても疲れにくいこと。
ex)レバー式の水道やペットボトルを簡単に開けられる道具など。

⑦広くて使いやすい場所



使う人の体の大きさや姿勢、動きなどに関係なくつかいやすい場所であること。
ex)多機能トイレや広い駐車場など。



このような自動販売機を町で見たことはありませんか？
コインを入れる部分が受け皿型になっていたり、選択ボタンも低い位置についていたりします。

▶▶▶裏面に続きます。

ユニバーサルデザインとバリアフリー

「ユニバーサルデザイン」と「バリアフリー」。どちらも“誰もが使いやすく、便利なもの”といった同じようなイメージのことばですが、実は意味が異なります。その違いについて皆さんは知っていますか？

バリアフリー





様々な人が生活をする中での障壁（バリア）をなくす（フリーにする）ことを意味します。バリアとは、障害のある人たちが社会で生活するうえで、不便であったり利用できなかったりすることです。バリアには大きく分けて 4 種類あります。

①駅や建物などにある段差や階段といった**「物理的バリア」**
②障害があることを理由に資格などが取れない**「制度のバリア」**
③目や耳が不自由なことで日常生活に欠かせない情報が利用できない**「文化・情報のバリア」**
④障害のある人への差別や偏見などの**「意識のバリア」**

ユニバーサルデザイン



冒頭にも言いましたが、ユニバーサルデザインは障害のある・なしだけでなく、年齢・人種などに関係なく、できるだけ多くの人が使いやすいように道具や建物、空間やサービスなどをデザインすることを言います。

最初にユニバーサルデザインを考えたアメリカの建築家ロナルド・メイス氏は、幼少期の病気が原因で車いすを使っていました。それまであった不便を解消するものは「障害のある人のための特別なもの」で、障害のある人とない人の間に“バリア”を作ってしまうと考えたそうです。そこで彼は、「最初からみんなが使いやすいものを作ればいいじゃないか！」とユニバーサルデザインの考え方思いついたと言われています。

「バリアを取り除く」というバリアフリーの考え方と**「最初からバリアを作らない」**というユニバーサルデザインの考え方。知っているようで知らないことばの違いから、**「どんな人も暮らしやすい社会」**について考えてみてください。



~チナミになる話~
国土交通省が定めている JIS 規定のピクトグラムは日本に約 110 種類あるそうです。交通機関（道路標識）や公共施設にあるピクトグラムをぜひ探してみてください♪

次回は、「外見からは気づきにくい障害」についてお伝えする予定です。

お子様について、学校生活、日常生活全般において「困っている様子が感じられる。」「どのように対応すればよいか。」などご相談がありましたら遠慮なくご連絡ください。毎週火曜日は、スクールカウンセラーの内山先生が来校しています。相談室利用についても、お気軽にご連絡いただければと思います。

参考・引用文献「TOKYO 人権」特別版　人権がもっとわかる本―公益財団法人東京都人権啓発センター（2024 年 3 月発行）